

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成27年8月27日(2015.8.27)

【公表番号】特表2013-516547(P2013-516547A)

【公表日】平成25年5月13日(2013.5.13)

【年通号数】公開・登録公報2013-023

【出願番号】特願2012-548989(P2012-548989)

【国際特許分類】

C 09 K	3/00	(2006.01)
C 09 K	5/04	(2006.01)
C 09 K	21/08	(2006.01)
C 09 K	3/30	(2006.01)
C 08 J	9/14	(2006.01)

【F I】

C 09 K	3/00	1 1 1 B
C 09 K	5/04	
C 09 K	21/08	
C 09 K	3/30	Q
C 08 J	9/14	

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年7月6日(2015.7.6)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) 71重量パーセントのZ-1,1,1,4,4,4-ヘキサフルオロ-2-ブテン、

(b) 27重量パーセントのトランス-1,2-ジクロロエチレン、および

(c) 2重量パーセントの1,1,1,3,3-ペンタフルオロブタン

を含む共沸組成物。

【請求項2】

(a) 52~72重量パーセントのZ-1,1,1,4,4,4-ヘキサフルオロ-2-ブテン、

(b) 20~28重量パーセントのトランス-1,2-ジクロロエチレン、および

(c) 0より多く~27重量パーセントの1,1,1,3,3-ペンタフルオロブタン
を含む共沸混合物様組成物であって、前記トランス-1,2-ジクロロエチレンおよび前記1,1,1,3,3-ペンタフルオロブタンが、前記Z-1,1,1,4,4,4-ヘキサフルオロ-2-ブテンと共に共沸混合物様組み合わせを形成するのに有効な量で存在する共沸混合物様組成物。

【請求項3】

請求項1または請求項2に記載の共沸組成物もしくは共沸混合物様組成物を発泡剤として使用する工程を含む熱可塑性または熱硬化性発泡体の製造方法。

【請求項4】

請求項1または請求項2に記載の共沸組成物もしくは共沸混合物様組成物を凝縮させる工程と、その後冷却されるべき本体の近くで前記共沸組成物もしくは共沸混合物様組成物

を蒸発させる工程とを含む冷却を行うための方法。

【請求項 5】

請求項 1 または請求項 2 に記載の共沸組成物もしくは共沸混合物様組成物を溶媒として使用する工程を含む方法。

【請求項 6】

請求項 1 または請求項 2 に記載の共沸組成物もしくは共沸混合物様組成物を熱媒として使用する工程を含む方法。

【請求項 7】

請求項 1 または請求項 2 に記載の共沸組成物もしくは共沸混合物様組成物を消火剤または鎮火剤として使用する工程を含む消火または鎮火方法。

【請求項 8】

請求項 1 または請求項 2 に記載の共沸組成物もしくは共沸混合物様組成物を誘電体として使用する工程を含む方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0022

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0022】

Z - F O - 1 3 3 6 m z z 、トランス - 1 , 2 - ジクロロエチレンおよび 1 , 1 , 1 , 3 , 3 - ペンタフルオロブタンは三元共沸もしくは共沸混合物様組成物を形成することが実験によって見いだされた。共沸組成物は、約 7 1 重量パーセントの Z - 1 , 1 , 1 , 4 , 4 , 4 - ヘキサフルオロ - 2 - ブテン、約 2 7 重量パーセントのトランス - 1 , 2 - ジクロロエチレン、および約 2 重量パーセントの 1 , 1 , 1 , 3 , 3 - ペンタフルオロブタンから本質的になる。それは、ほぼ大気圧 (1 4 . 7 p s i a) で約 3 0 の沸点を有する。共沸混合物様組成物は、約 5 2 ~ 約 7 2 重量パーセントの Z - 1 , 1 , 1 , 4 , 4 , 4 - ヘキサフルオロ - 2 - ブテン、約 2 0 ~ 約 2 8 重量パーセントのトランス - 1 , 2 - ジクロロエチレン、および 0 より多く ~ 約 2 7 重量パーセントの 1 , 1 , 1 , 3 , 3 - ペンタフルオロブタンから本質的になる。それは、約 1 4 . 7 p s i a の圧力で約 3 0 ~ 約 3 2 の沸点を有する。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0034

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0034】

実施例 1

実施例 1 は、Z - 1 , 1 , 1 , 4 , 4 , 4 - ヘキサフルオロ - 2 - ブテン、トランス - 1 , 2 - ジクロロエチレンおよび 1 , 1 , 1 , 3 , 3 - ペンタフルオロブタンによって形成される共沸もしくは共沸混合物様組成物の存在を実証する。温度計を備えたエブリオメータに、2 0 . 0 グラムの混合物 (7 2 . 1 重量 % の Z - 1 , 1 , 1 , 4 , 4 , 4 - ヘキサフルオロ - 2 - ブテンおよび 2 7 . 9 重量 % のトランス - 1 , 2 - ジクロロエチレン) を装入し、次に 1 , 1 , 1 , 3 , 3 - ペンタフルオロブタンを測定增量して加えた。約 1 4 . 7 p s i a で、得られた三元混合物の沸点温度を測定し、記録した (表 1 を参照されたい) 。 1 , 1 , 1 , 3 , 3 - ペンタフルオロブタンを Z - F O - 1 3 3 6 m z z / トランス - 1 , 2 - D C E 混合物に加えたときに温度低下が観察され、三元最低沸騰共沸混合物が形成されたことを示唆した。ほぼ大気圧 (1 4 . 7 p s i a) で三元共沸組成物は、約 2 重量パーセントの 1 , 1 , 1 , 3 , 3 - ペンタフルオロブタン、約 7 1 重量パーセントの Z - F O - 1 3 3 6 m z z および約 2 7 重量パーセントのトランス - 1 , 2 - D C E を有し、約 3 0 の沸点を有することが分かった。 0 より多く ~ 約 2 7 重量パーセントの

1 , 1 , 1 , 3 , 3 - ペンタフルオロブタンで、得られた三元混合物の沸点は約 2 ℃ 以下だけ変化した。これらの組成物はそれ故に、この範囲にわたって共沸混合物様特性を示した。